

小学校 5年 算数科

考える

話す・聞く
書く

育成したい
国語力

複数の理由により根拠を明らかにしながら、推論したことを正確に分かりやすく述べる。
法則性に基づき、自らの考え方について効果的に書く。

単元名

「同じものに目をつけて」

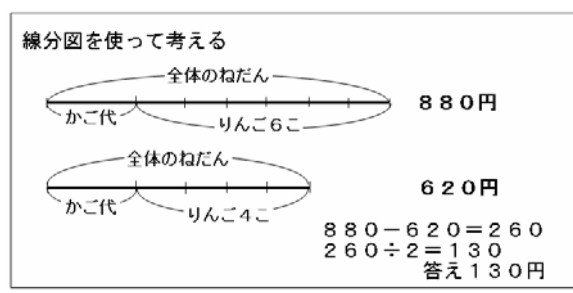
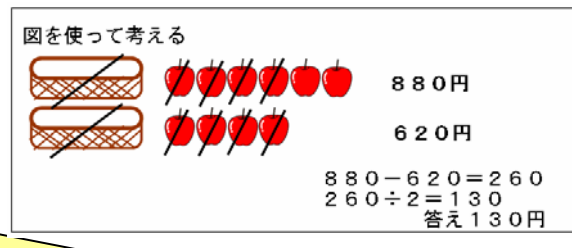
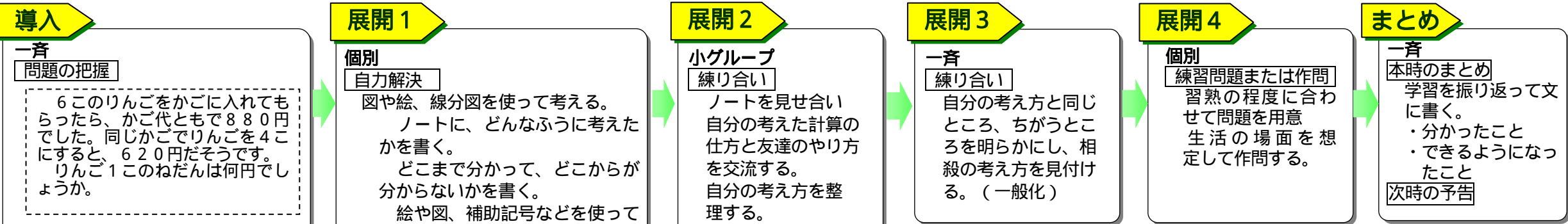
本時の目標

相殺の考え方を使って問題を解いたり、説明したりできる。
(数量や図形についての表現・処理)
(数学的な考え方)

国語力育成の視点

「『練り合い』が深まらない」とか、「どう指導していいのかわからない」という声をよく聞きます。それは、「練り合い」の場面で、「何について話し合うのか」や、「『練り合い』をするために必要な力や態度」が明確でないことによるものだと考えられます。多くの「練り合い」の場面で、指導者も児童も「答えは何か」にこだわりすぎているという傾向が見られます。この場合、正解に到達したとたんに追求の意欲はすぼんでしまい、それ以上話し合いは深まりにくくなります。そうではなく、この問題をどのように考えていったのかの過程について話し合うということです。すると、「ここまで考えたが、そこから分からなくなった。」とか、「その考え方のここまでは分かるが、後がわからない」などの発言が出てきて、似たような疑問を基点に話し合いを深めていくことができます。次に、「『練り合い』に必要な力や態度」としては、「話す力」「聞く力」が注目されがちですが、それらと表裏一体の関係にある「態度」の方に目を向けることが大切です。「練り合い」をより意義あるものにするためには、「人の考えを理解しようとする共感的な態度」「自分の考えを人に分かってもらおうとする積極的な態度」「人の考え方のよさを自分の考えに取り入れようとする態度」等の態度が求められます。そうした態度の育成に視点を当てることによって、練り合いが変わってくると考えられます。

本時の流れ



同じものを差し引くと、違いが見付けられる。

視点②

全員で練り合いをする前に、**少人数でのコミュニケーションの機会**を設けることは次のような意味があります。
少人数での交流時に、自分の考えが友達に評価されたり、他の友達と同じだったりすると自信がわいてきて、全体の場でも発表しやすくなる
全体の練り合いの前に少人数での交流を取り入れることで、自分の考え方を修正・改善したり、聞き手が質問をして理解を深めたり、説明する力がつく。

視点①

「自分の考えを書きましょう」と言っても、書けない子どもがいます。何について、どう書けばよいか分からず書けずにいる子どもには、より具体的な指示をする必要があります。
まずは、理解の度合いや考えの状態を、空欄または、選択肢として示す方法があります。
例：「分かること」と「分からないこと」に分けて記述
例：「はっきりしたこと」と「はっきりとしないこと」に分けて記述
例：「自信があること」と「自信がないこと」に分けて記述
例：多様な考え方に対し、よいところ、悪いところ、賛成、反対 等
また、実態に応じた時間の確保も重要なポイントです。

つながりのある話し合い

深まりのある練り合いをするには、関連のある発言をすることが大切です。それには、全員で共通の課題を解決していこうというムードを高めるとともに、友達の発表を聞いて「くんに付け足して・・・」とか「さんとは少し違うんだけど・・・」等、発表が繋がっていくような話し合いの仕方を指導する必要があります。

視点③

他の友達の考え方を推量する話し合い

人の考えを推量する力は、聞く力(コミュニケーションをする力)の中では見逃されがちです。算数の学習では、この力を育む絶好の機会がたくさんあります。
「Aさんは、どうしてこのように考えたのでしょうか」という発問に、応えが返ってきたら、「Aさんどうですか、今の説明でいいですか」と確認する。するとAさんは、「その通りです」とか「違います」などと応える。このとき、Aさんの考え方が必ずしも正しくなくてもいいのです。むしろ間違った考え方であった方がより理解が深まる場合もあります。

友達の意見に流されないこと

自力解決では、しっかりと自分の考え(ここが分からない)をもち、全体で解決する場では、容易に友達の意見に流されない態度を育成することも大切です。また、本当に納得した時には、自分の考えを変えることは恥ずかしいことではないことも押さえておきましょう。